

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2022年度 富山北部高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	家庭学習習慣の確立と授業力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己の進路に明確な目標を持つ時期が遅い。また、生徒の進路希望が幅広く多岐にわたっている。</li> <li>・ 予習復習を中心とした家庭での学習が習慣化されておらず、基礎学力や知識が不足している。学習に対する取り組みが不十分である。</li> <li>・ 生徒1人1台タブレットPCが配備され、より一層ICT機器を活用した効果的な授業法を研究していかなければならない。ICTを活用した授業が増えているが、そのノウハウを教職員間で共有していく必要がある。</li> </ul>
達成目標	<p>① 家庭学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習実態調査で家庭学習を2時間以上行う生徒の割合が70%以上。</li> </ul> <p>② 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間2回以上、互見授業に参加する。</li> <li>・ ICTを活用した授業研究に取り組み、互見授業や研修会等を実施する。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習・生活実態を把握するため、記名式の調査を年間5回程度行う。また、調査結果を分析し、生徒面談、保護者会、学年集会等をとって生徒の学習意欲を喚起するとともに、教科、学年、家庭と連携をとりながら効果的な方策をたてる。</li> <li>・ 総合的な探究の時間やホームルームを通して自分の将来像を思い描き、必要な学力や技能、資格取得に向かって努力させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互見授業期間を1学期中間考査後と、2学期中間考査後に設定し、授業力向上、授業改善に努める。各自2回以上、互見授業を実施または参観することとする。</li> <li>・ ICT機器を活用した課題提示の内容や方法等について工夫している点を相互に学び合い、各自のスキル向上を図る。</li> <li>・ 生徒の進路実現に向けた検討会を行う。</li> </ul>

2022年度 富山北部高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の定着および「自覚と責任」を持たせる生徒指導の充実</li> <li>・ 健康管理能力の育成と、教育相談スキルの向上</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣、交通安全・マナーが身につけていない生徒が見られる。</li> <li>・ SNS等の適切な利用、正しい知識が不足している生徒が見られる。</li> <li>・ 規範意識の希薄な面があり、「自ら律する」指導を充実させる必要がある。</li> <li>・ 健康診断後に各種治療カードを発行しているが、受診する生徒が少ない。特に歯科については回収率が5%を下回っており、早期の治療を促す必要がある。</li> <li>・ 不登校傾向の生徒、悩みを抱え、体調不良を訴えて保健室を訪れる生徒が増えてきている。このような生徒へ対応するために、教職員の生徒理解のための教育相談スキルの向上が求められる。</li> </ul>
達成目標	<p>① 登校指導、頭髪・服装指導の充実</p> <p>② 治療カードの回収率向上</p> <p>③ 生徒理解のためのスキルアップ</p> <p>① 1日遅刻平均0.5人を下回る。 (但し、持病や自然災害、交通遅延などによる遅刻を除く。)</p> <p>② 歯の治療カードの回収率50%以上</p> <p>③ 教職員対象の研修会の実施</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣の定着、交通安全意識・マナー、規範意識の向上を目指し全職員一丸となり、登校指導、昼の校内外巡視、頭髪服装指導を実施する。</li> <li>・ スマートフォン・インターネット安全教室や交通安全講話を実施する。</li> <li>・ あらゆる教育活動を通じて、「自ら律する」姿勢を育て、「自覚と責任」を持たせるように指導する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康診断後に治療カードを発行し、医療機関での再検査や治療等を促し、保護者会等でも受診を勧める。保健日より回収率を掲載し、自己の健康管理に対する意識を高める。</li> <li>・ 学年と連携し、生徒の実態把握に努めるとともに、研修会を開催し、専門家から生徒理解のためのスキルを学ぶ。</li> </ul>

2022年度 富山北部高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	進路意識の向上と進路実現に向けた進路指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己や社会に対する認識が不十分である。</li> <li>将来の職業や生き方について考え、今は何をすべきか先を見通して実践することが難しい。</li> <li>進路目標達成のため、学習時間や学習量を確保できない生徒が多い。</li> </ul>	
達成目標	① 進学 進路指導に対する満足度	② 就職 進路指導に対する満足度
	95%以上	95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の適性や能力を詳細に把握するとともに、生徒自身にも自覚を持たせる。</li> <li>将来設計に基づいた進路指導を行い、的確な進路情報の提供や生徒の学力分析、教員との面談を実施する。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学ガイダンス・学校見学・企業見学・進路調査・講演会等を通して、進路目標を早期に設定させる。</li> <li>学力の向上に向けて、教科補習、外部模試等を各教科と連携して継続的に実施する。</li> <li>担任を中心とした個別面接を通して進路指導を行うと同時に、教員研修を行い、全教員で面接指導や小論文指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職ガイダンス・学習会を実施し、自己の興味・関心や能力・適性の理解に努め、職業意識を高める。</li> <li>就職試験の準備に早期に取り組むと同時に、内定後も職業人としての意識を高めるよう指導する。</li> <li>教師の会社訪問を通して、卒業生の状況や求人情報の収集に努める。</li> </ul>

2022年度 富山北部高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	諸活動を通じ、自ら考え、自ら行動する姿勢の育成。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心や自分に責任があることには積極的に行動するが、周囲のためになる自発的な行動、愛校心や学校をより良くしていこうという意識には、物足りなさを感じる。</li> <li>地域のことについて興味が薄いので、地域での活動に参加を促す。</li> <li>課題解決に本を利用するなどの読書習慣が充分身についていない。</li> <li>昨年度の一人あたり貸し出し冊数3.16冊（1月末）。前年同期比で1.07ポイント増。</li> <li>昨年度来館者数4469人（1月末）。前年同期比で370人増。</li> </ul>	
達成目標	① 生徒会行事満足度	② 一人あたり貸し出し数及び来館者数
	90%以上	3.20冊 4800人
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事において、生徒会を中心に一般生徒が積極的に参加できる体制を作り、責任感を持って活動できるよう配慮する。</li> <li>学校行事を通して愛校心を育むよう工夫する。</li> <li>集会時の整列を自分達で行い自立を促す。</li> <li>学校主催のボランティア活動をより自主性を持って参加させ、地域の一員であるという意識を持たせる。</li> <li>地域の行事等に部活動の一環として協力するなど、地域の諸活への参加を促す。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・学年との連携を深め、課題解決学習での図書の利用、進路に関わる図書の利用等図書部のレファレンス機能を向上させる。</li> <li>校内の広報活動の充実や読書環境の整備を積極的に行い魅力ある図書館づくりに努める。図書委員会の活動を充実させ、イベント企画を工夫し参加しやすいものにするなど、一般生徒が図書館に足を運ぶ機会を増やす。</li> <li>映画、TV等のメディア情報を取り入れる等生徒の興味関心を調査し応えていくことで読書への関心を高める。</li> </ul>	

2022年度 富山北部高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	学校、保護者、社会における相互の協力と情報共有の促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育友会の活動があまり周知されていないとする指摘が若干の会員から寄せられた。</li> <li>・ 共働きやパートなどによる生計の維持の家庭が多かったり、他校のPTA役員を兼ねている家庭があったりすることから、活動を負担と感じ、会合に参加されない保護者もおられる。</li> <li>・ PTA 各行事への一般会員の参加が少ない。</li> <li>・ 生徒を通じてPTA 行事の案内をしているが、保護者に届かない場合がある。</li> </ul>	
達成目標	① 行事や活動の満足度	② PTA会報『いくゆう』の閲覧
	参加者の満足度：80%以上	全会員の80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の負担感を少なくするような育友会活動にしていく必要がある。</li> <li>・ 役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。</li> <li>・ 育友会主催の行事や活動について、参加者の満足度が高くなるように心がけることで、育友会活動に参加することの意義や理解を深める。</li> <li>・ 学校のホームページや教育安全メールなどを利用して活動を積極的に発信する。</li> <li>・ 『いくゆう』は読みやすい誌面を工夫し、会員に直接手交する。</li> </ul>	